

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 「公共」は、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現実社会の諸課題の解決に向け、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する。

基礎的・基本的な概念や理論、考え方等を活用し、文章や資料を的確に読み解きながら考察する力を求める。

問題の作成に当たっては、現実社会の諸課題について理解したり考察したりするために必要な概念や知識に関わる問題、多様な資料を用いて考察する問題などを含めて検討する。

- 「政治・経済」は、社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代における日本及び国際社会の諸課題の解決に向け、政治と経済を関連させて、多面的・多角的に考察したり構想したりする過程を重視する。

「公共」での学習などを踏まえ、「政治・経済」の学習によって深められた理解を基に政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。

問題の作成に当たっては、各種統計などの多様な資料、さまざまな立場に立って話し合う場面等から必要な情報を読み取り、考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」第1問と同じ。

第2問

『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」第4問と同じ。

第3問 大学のオープンキャンパスに参加して模擬授業を受けた生徒たちが、その内容や資料を踏まえて議論するという場面を設定し、近代憲法の仕組み：権利・自由の保障と権力分立、財政の役割：効率と公正の視点からについて考察することを意図して問題を作成した。問1は人身の自由に関する模擬授業を手がかりに、罪刑法定主義や遡及処罰の禁止の趣旨についての正確な知識と理解を問う問題である。問2は日本国憲法における国民代表の観念のあらわれに関する理解を問う問題である。問3は自由で公正な社会の実現に不可欠な司法権の独立に関する正確な知識と理解を問う問題である。問4は資本主義経済体制における政府の役割の在り方についての知識を問う問題である。問5は租税負担の在り方について、租税の原則に関する知識と理解を問う問題である。問6は所得再分配の効果について、ジニ係数に関する知識と理解を基に図を読み取り、それを踏まえて税による再分配政策を考察する問題である。問1の正答率はどの成績層においてもかなり高く、問5の正答率は低いものの成績上位層の識別力はあった。全体として難易度は標準的で、識別力はやや低かった。

第4問 現代日本における諸課題に、デジタル技術の活用と、政治と経済とを関連させた多面的・多角的な考察、構想が求められていることを踏まえ、金融及び公共交通の分野における活用方策と課題についての知識及び思考力等を問う問題としている。問1は日本銀行券と仮想通貨（暗号資産）の性質との比較を通じて、銀行の役割や日本銀行券の特徴を読み取る力を問う問題である。問2は企業が設備投資のために銀行から資金を借り入れる場面を設定して、バランスシートの構造の理解を問う問題である。問3は家計の資産運用を行う場面の下で、預金保険

制度の理解と利回りの仕組みについて考える力を問う問題である。問4は人手不足の状況において取りうる方策や、解決の方向性として考えられる方策を選択する能力を問う問題である。問5は地方公共団体、及び地方公共団体と国との関係についての制度に関する知識を問う問題である。問6は内閣機能をはじめとする行政機関のしくみに関する知識を問う問題である。問4は正答率が高かった。問6の正答率は低かったが、識別力は有していた。全体としての難易度、識別力は標準的であった。

第5問 少子高齢化社会における働き方と政治参加をテーマに、生徒がさまざまな課題について解決策を考えるという場面を設定した。小問は、基礎的な知識と統計データなどの資料から読み取れることとを合わせることで解答を導くことができるよう作成した。問1は人口と労働力の問題についての理解と、それについて示された統計データを読み解く力を問う問題である。問2は女性の労働供給に関する知識と、それについて示された統計データを読み解く力を問う問題である。問3は日本の公的社会支出の内訳についての知識と、文章で示された事実とグラフとの対応についての理解を問う問題である。問4は最高裁判所の多数意見と個別意見を読み解きながら、夫婦同氏制の具体的な問題やその社会的背景を理解しているかを問う問題である。問5は憲法25条の生存権についての基本的な知識を問う問題である。問6は公職選挙法で認められている選挙運動の範囲及び選挙制度についての理解を問う問題である。問2の正答率は低かったが、識別力は有していた。問3も正答率はやや低いものの成績最上位層の識別力はかなり高かった。問4の正答率は高かったが、識別力は有していた。全体としての難易度、識別力は標準的であった。

第6問 生徒が探究する学習に臨む場面を想定し、探究学習の各段階を反映したつくりで、国際社会の現状や課題に関する知識や、課題に対する解決策の模索と提起・表現の能力まで問う問題を作成した。問1は為替相場の変動が企業の対外的な経済取引、更には一国の経済に及ぼす影響を現実社会に即して理解しているかを問う問題である。問2は安全保障のジレンマについて知識や特徴の理解、解決するための条件の理解を問う問題である。問3は貿易取引や投資収益などが計上される経常収支と金融取引が計上される金融収支に対する理解に基づいて、近年の日本の国際収支の変化を把握しているかを問う問題である。問4は各国の国益の衝突の一方で、為替相場の安定のために国家間の協調が追求されてきた経緯を理解しているかを問う問題である。問5はグローバル・ヘルスという事例をとおして、技術革新と社会的公正との両立について考え解決策を見出せるかを問う問題である。問6は前問を応用し、先進国と発展途上国との教育格差の解決策をめぐり、授業で学んだESG投資の知識を用いて、課題に対する解決の方向性を思考し見出せるかを問う問題である。問2は正答率が高く、識別力はやや低かった。問3の正答率はやや低かったが、成績上位層の識別力は高く、問5も正答率はやや低いものの成績最上位層の識別力はかなり高かった。全体としての難易度、識別力は標準的であった。

3 出題に対する反響・意見等についての見解

第1問と第2問については『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」を参照。

出題範囲・内容については、「学習指導要領の定める範囲で出題されており、出題内容に大きな偏りはなかった」ものの、「大問全体の設定を政治分野から経済分野、国内の諸課題から国際社会の諸問題に反映させる工夫がみられたが、国際社会からの出題がやや少なかった」との指摘も受けている。こうした若干の偏りは「生徒の学びの場を、発展させている設定が多くなっており、そこで学んだことを基に、主体的に活動する学習過程を意識した場面設定がなされている」ことによるところもあり、新しい学習指導要領に基づく問題として適切なバランスを維持していくよ

う留意していきたい。分量については、「問題作成方針を考慮すると適切であった」が、文字数については「探究する活動の場面設定の中で思考したり判断したりする出題が今後増加するのであれば、読む文章の分量を削減し、解答について受験者が考察する時間を現状以上に確保することを検討してよいのでは」と指摘されており、検討していきたい。難易度については、「やや難しい問題から平易な問題まで幅広く織り交ぜられており適正」であり、「知識及び技能だけでなく思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問があり、良問もみられる」と評価されている。

問題の場面設定については、「社会の問題に対して生徒が主体的に取り組む場面設定」が多く、「現代社会の諸課題について、主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な資質・能力と態度を育てるという、「政治・経済」の科目の目標に照らして、適切であった」と評価されている。ただし、「各大問の場面設定は工夫されているが、用語の引出しのみにとどまり、各設問での活用に乏しいものもあった」との指摘もあった。出題分野の偏りをまねかないように配慮しつつ場面設定を活かすための工夫について、更に検討を重ねたい。設問形式については、複数のものを組み合わせる解答がやや多くなっているとの指摘があり、受験者の負担という面で配慮していきたい。配点については、「思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問の配点が大きくなっており、適切である」との評価を受けた。文章表現・用語や図表の取扱いについては、「知識の確認にとどまっている設問もあり、表現上の工夫や関連する資料等を用いて考察させる工夫が必要である」との指摘があり留意を要するが、「全体としては、受験者が問題を理解しやすいように工夫されており、適切であった」と評価されている。

第3問は、「生徒にとってなじみのない用語もみられたものの、全体としての難易度は標準である」との評価で、問2は「言葉だけで考えるのではなく、視覚的な扱いが生徒の主体的な学習理解を深めるメッセージ」になっており、問6は「単なる基礎的基本的な知識を問うことにならぬよう配慮されている」と評価されている。

第4問は、「デジタル技術によるイノベーション」をテーマにした「経済分野と政治分野の融合問題」によって、「課題解決の方向性についての思考力」や地方公共団体に関する制度や行政機関に関連した考察を題材とし、「全体としての難易度は標準である」と評価されている。問4は「労働力需給の逼迫という今日的課題の解決を考える思考力判断力の問い」との評価を受けている。

第5問は、「授業で話し合ったテーマを基にして、自ら図やグラフを見つけたり、作成したりして、そこから考察を深めることの大切さを示しており、このような生徒の活動が高等学校に求められていることが示されている」との指摘を受け、「全体としての難易度は標準である」との評価である。問2は「異なる形式の資料を読み解かせ、仮説の後でエビデンスのメッセージを出題したりするなどの工夫がみられる」と評価され、問2～問4が「思考力判断力の問い」とされている。

第6問は、「探究する学習の各段階を反映したつくりとなっており、成果の発表で終わらせるのではなく、それをきっかけに新しい課題を発見するところまで示されている」と評価され、「全体としての難易度はやや高かった」とされている。問3・問4が「思考力判断力の問い」とされ、問6は「平易だが主題としては大切な問い」と評価されている。

4 まとめ

第1問と第2問については『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」を参照。

新しい学習指導要領による新たな科目「公共、政治・経済」の初めての出題として、出題形式にも工夫して問題作成方針の「政治と経済を関連させて、多面的・多角的に考察したり構想した

りする過程を重視する」ことに努めた。その結果、「高等学校教科担当教員の意見・評価」では「主体的に活動する学習過程を意識した場面設定」が、『政治・経済』の授業における探究の一つのモデルケースとして、このような活動が高等学校の学びの場面に求められていることを強く感じ取ることができる」として、「今後も基礎的・基本的な知識を問うだけの問題ではなく、探究する活動の中で生徒がどのような思考力・判断力・表現力等にかかる能力を身に付けることができるのかを判定することができる作問を期待したい』との評価を受けることができた。「教育研究団体の意見・評価」でも、「受験者が自ら獲得した知識を活用し、思考力や判断力を働かせ、今日に生きる私たちが抱える社会的な課題をいかに解決したらよいかを当事者意識をもって思考する力があるかを問うとともに思考しているかを問う問題である」との評価である。全体として難易度や識別力も標準的であり、新しい学習指導要領による最初の共通テストに求められる水準の問題を作成することができたと判断している。

今後も、文章量や設問形式の面で受験者の負担に配慮しながら、「どのような思考の過程を経て結論に到達したのか、その中で何を判断の根拠としたのかを問いかけている」と評価される設問をさらに充実させるよう検討を重ねていきたい。また、本試験と比べて知識問題がやや多いという指摘に関連して、資料の読み取りにおいて基本的な知識とともに判断を求める設問では、「正確な知識を用いた判断に至っていない受験者もみられ、基礎的・基本的な知識の定着の点で課題があるのではないか」と、教育上の課題を浮き彫りにしているとの評価もあった。知識の単なる確認ではなく、その定着・活用を問う設問の必要性を示すものと受けとめ、更に工夫を重ねていきたい。